

# 慶應言語学コロキウム

## A theory of pied-piping of formal features

講師：船越(後藤)さやか (青山学院大学非常勤講師)

[日時] 2018年8月17日(金) 13:00-18:30

[会場] 慶應義塾大学三田キャンパス北館3階大会議室

\*参加費無料・事前申込不要 (会場にて参加者カードへの記入が必要となります)

本発表では、素性照合 (feature checking) に直接関係していない形式素性 (formal feature) の移動 (形式素性の付随的移動 “pied-piping of formal features” と呼ぶ) に関する理論を提案し、それによってバンツー諸語に見られる疑問詞一致 (wh-agreement) のパターンや弱交差現象 (weak crossover) の言語間差異が説明されるということを示す。

Chomsky (1995) は 形式素性の付随的移動は “automatically” に起こると提案している。この提案は形式素性の付随的移動はコストフリーであり統語的制約がかからないと解釈される。これに反して Ura (2001) は、形式素性の付随的移動はコストフリーではなく、他の移動と同様に相対的最小性 (relativized minimality) の適用を受けるということを提案している。本発表では、Ura (2001) の提案に基づき、形式素性の付随的移動についての一つのアプローチを提案する。また提案された理論を用いて、バンツー諸語に見られる疑問詞一致現象の言語間差異を分析する。さらに、弱交差現象に関して、束縛 (binding) には  $\phi$ -素性 ( $\phi$ -feature) が関与していると提案することで、言語内/言語間に見られる弱交差現象の有無についての違いが A/A' という概念を用いることなく説明されるということを示す。

[お問い合わせ先]

〒108-8345 港区三田2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所  
電話：03-5427-1595 (事務室直通) メール：genbu@icl.keio.ac.jp  
<http://www.icl.keio.ac.jp>